7-2　人と自然との豊かな触れ合いを旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素

7-2-1　景観

１．　地形改変後の土地及び工作物の存在（土地又は工作物の存在及び供用）

（１） 調査内容

１）調査項目

調査項目は、表 7-2-1-1 に示すとおりとした。

表 7-2-1-1　地形改変後の土地及び工作物の存在に係る調査項目

調査項目	
景観の状況	主要な視点場の状況
	主要な自然景観及び都市景観資源の状況
	主要な景観の状況
	圧迫感の状況

２）調査期間

調査期間は、表 7-2-1-2 に示すとおりとした。

表 7-2-1-2　地形改変後の土地及び工作物の存在に係る調査期間

調査項目		調査期間
景観の状況	主要な視点場の状況	夏季：令和7年8月21日～8月22日 冬季：令和7年12月23日
	主要な自然景観及び都市景観資源の状況	
	主要な景観の状況	
	圧迫感の状況	

３）調査方法

調査方法は、表 7-2-1-3 に示すとおりとした。

表 7-2-1-3　地形改変後の土地及び工作物の存在に係る調査方法

調査項目		調査方法
景観の状況	主要な視点場の状況	資料調査及び現地踏査 （目視確認、写真撮影）
	主要な自然景観及び都市景観資源の状況	
	主要な景観の状況	
	圧迫感の状況	天空写真(地上1.5m)の撮影

4）調査地点

調査地点は、表 7-2-1-4、図 7-2-1-1（中近景域）、図 7-2-1-2（遠景域）及び図 7-2-1-3（近景圧迫感等）に示すとおりとした。

表 7-2-1-4　地形改変後の土地及び工作物の存在に係る調査地点

調査項目		調査地点
景観の状況	主要な視点場の状況	①発寒いこい公園 ②新川西会館/桜並木 ③発寒青空公園 ④発寒西公園 ⑤宮丘公園（遊戯広場） ⑥JRタワー展望台 ⑦前田森林公園（ながめの丘）
	主要な自然景観及び都市景観資源の状況	
	主要な景観の状況	
	圧迫感の状況	⑧北東側工業団地内 ⑨北側工業団地内 ⑩北側住居付近 ⑪西側住居付近 ⑫最寄ショッピングセンター（追分通） ⑬南側道路（下手稲通）

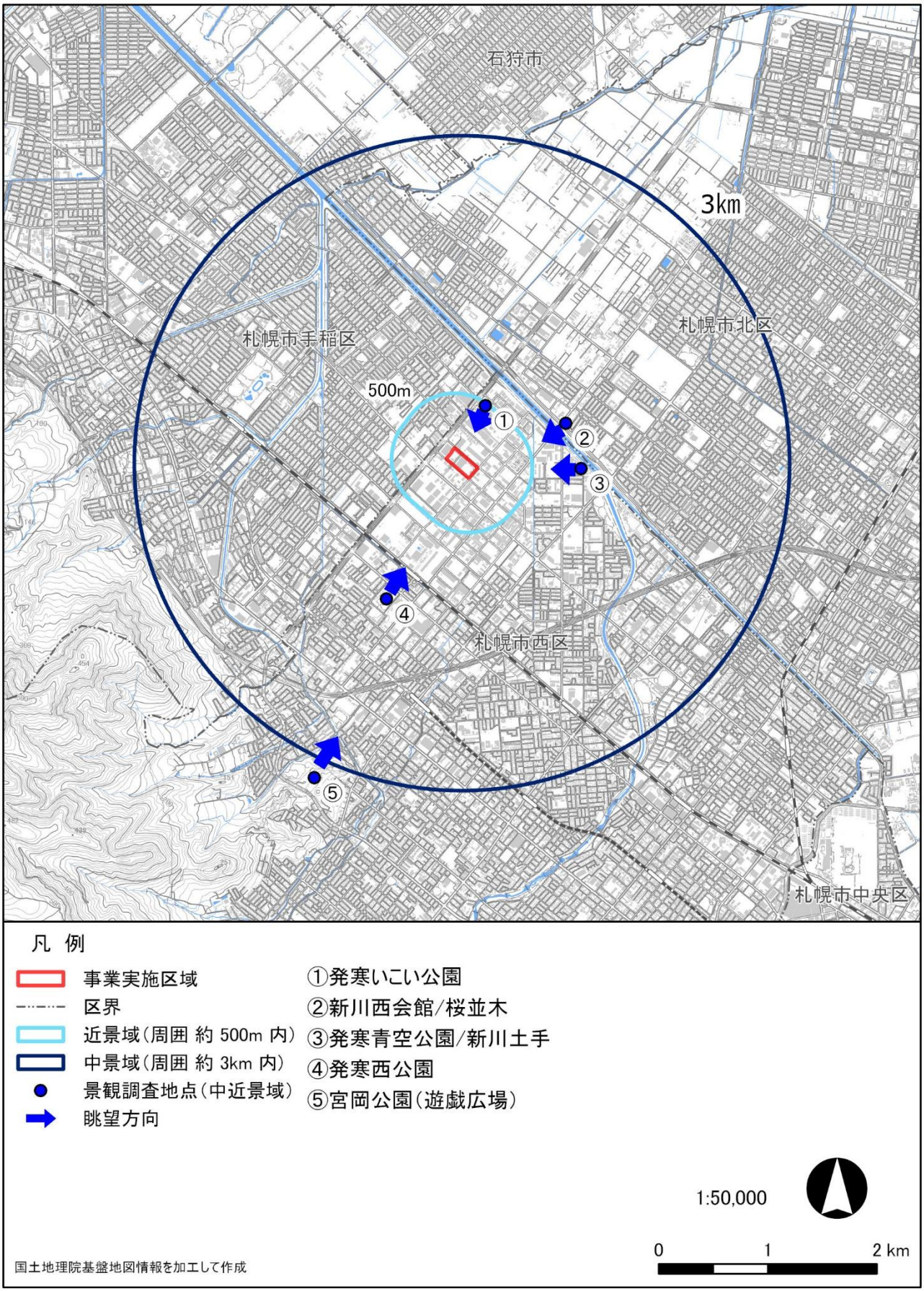


図 7-2-1-1　景観調査地点（中近景域）

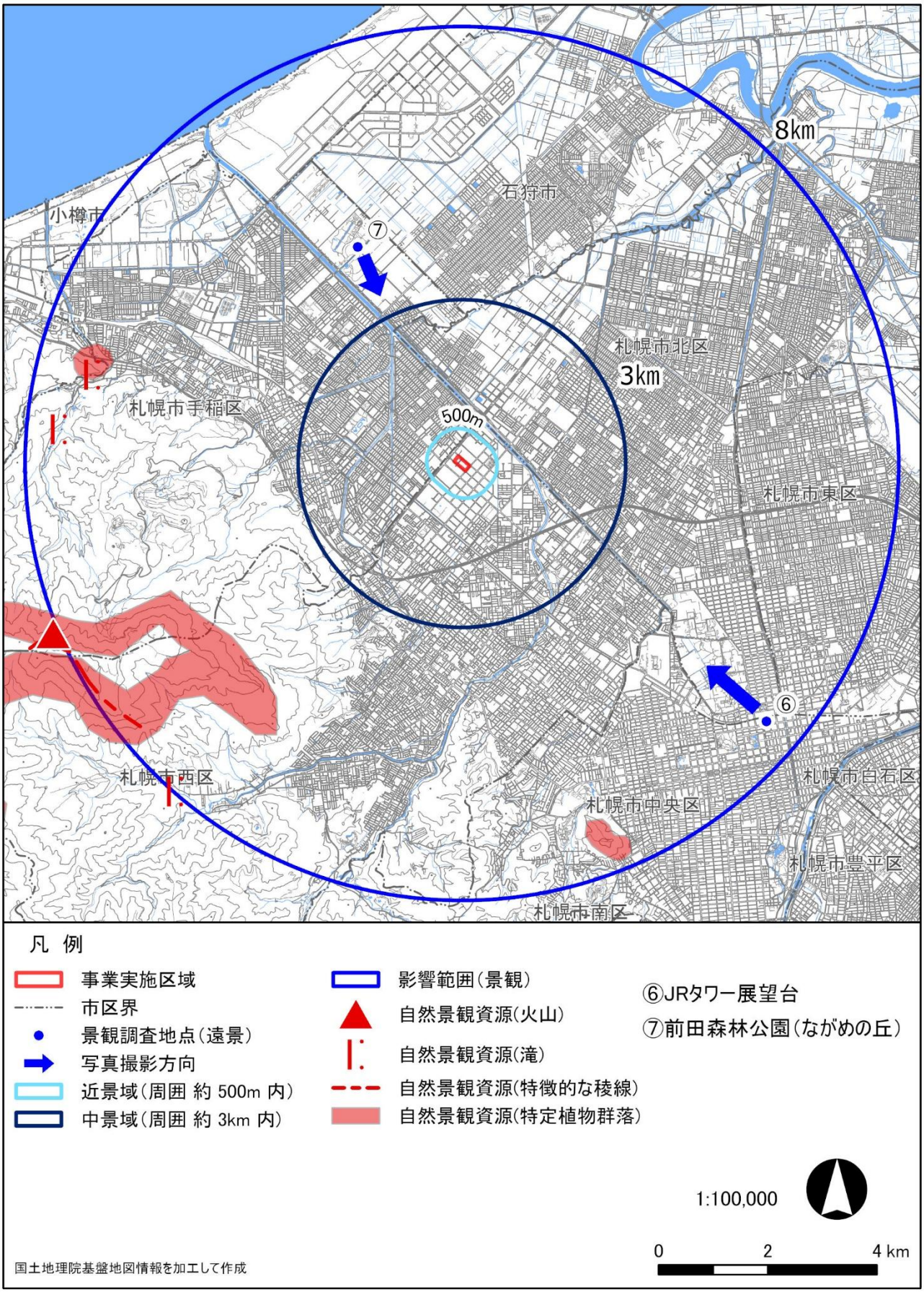


図 7-2-1-2　景観調査地点（遠景域）

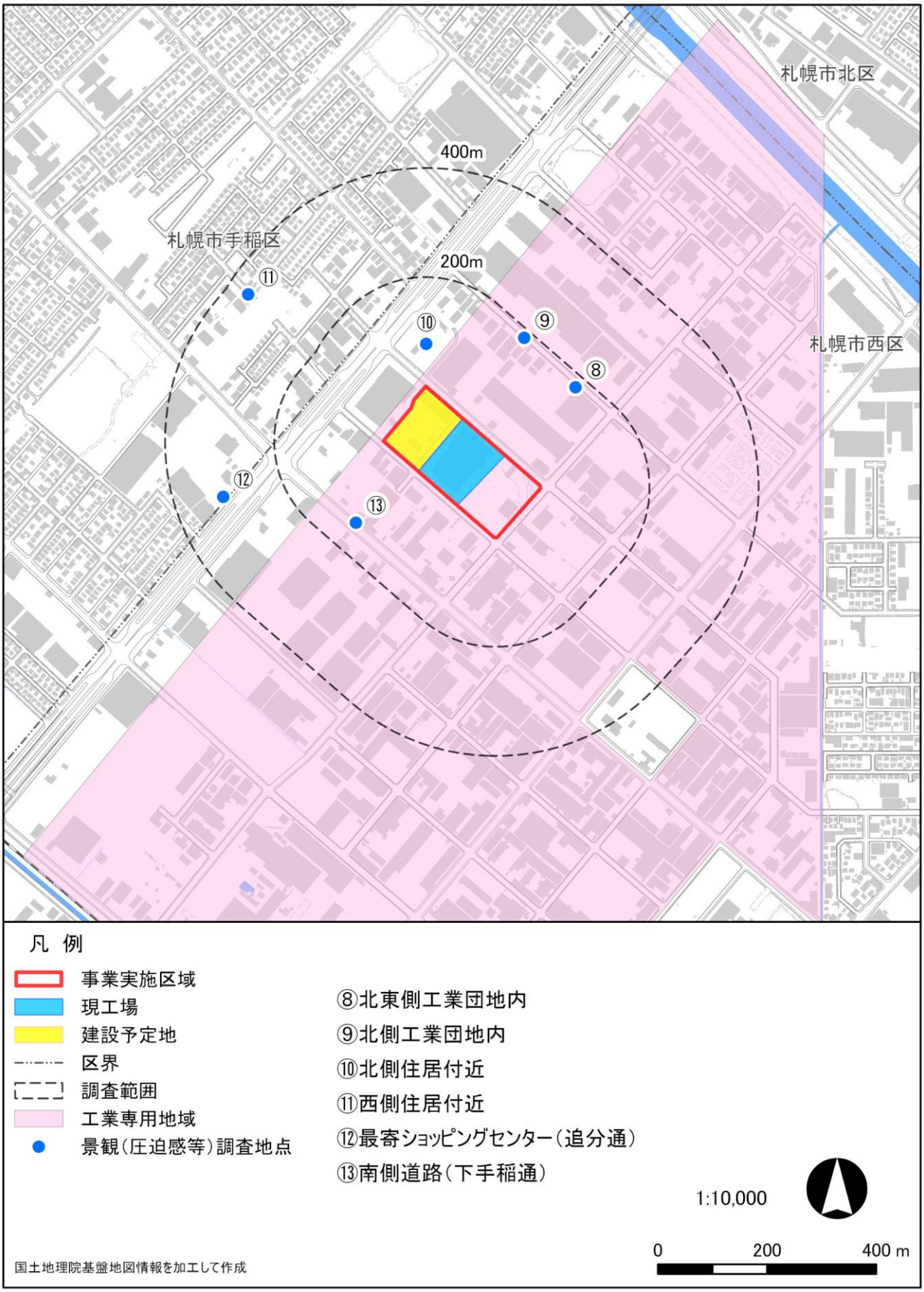


図 7-2-1-3　景観の調査地点（近景圧迫感等）

（２） 調査結果

景観の現地調査結果を表 7-2-1-5 及び表 7-2-1-6～表 7-2-1-18 に示す。

表 7-2-1-5　景観に係る現地調査の結果

名称	視点場の状況	主要な自然景観及び都市景観資源の状況
①発寒いこい公園	発寒いこい公園から事業実施区域方向を眺望することができる。	特になし
②新川西会館/桜並木	新川西会館前から事業実施区域方向を眺望することができる。北海道道125号前田新川線が新川に沿って手前を走っており、車両の通行がある。	特になし
③発寒青空公園/新川土手	新川左岸側の土手から事業実施区域方向を眺望することができる。	特になし
④発寒西公園	発寒西公園内の開けた場所から事業実施区域方向を眺望することができる。	特になし
⑤宮丘公園（遊戯広場）	宮丘公園内の遊戯広場から事業実施区域方向を眺望することができる。	特になし
⑥JRタワー展望台	JRタワー展望台から事業実施区域方向を眺望することができる。利用者は多いが、事業実施区域は主な眺望方向となる札幌中心市街地方向からはやや外れた場所にある。	特になし
⑦前田森林公園（ながめの丘）	前田森林公園のながめの丘から事業実施区域方向を眺望することができる。	特になし
⑧北東側工業団地内	工場横の地点である。	特になし
⑨北側工業団地内	工場横の地点である。	特になし
⑩北側住居付近	住宅横の地点である。	特になし
⑪西側住居付近	住宅横の地点である。	特になし
⑫最寄ショッピングセンター（追分通）	商業施設横の地点である。	特になし
⑬南側道路（下手稲通）	住宅横の地点である。	特になし

表 7-2-1-6　①発寒いこい公園からの眺望

夏季	
冬季	

表 7-2-1-7　②新川西会館/桜並木からの眺望

夏季	
冬季	

表 7-2-1-8　③発寒青空公園（新川土手）からの眺望

夏季	
冬季	

表 7-2-1-9　④発寒西公園（野球場）からの眺望

夏季	
冬季	

表 7-2-1-10　⑤宮丘公園（遊戯広場）からの眺望

夏季	
冬季	

表 7-2-1-11　⑥ＪＲタワー展望台からの眺望

夏季	
冬季	

表 7-2-1-12　⑦前田森林公園（ながめの丘）からの眺望

夏季	
冬季	

表 7-2-1-13　⑧北東側工業団地内の天空写真

夏季	
冬季	

表 7-2-1-14　⑨北側工業団地内の天空写真

夏季	
冬季	

表 7-2-1-15　⑩北側住居付近の天空写真

夏季	
冬季	

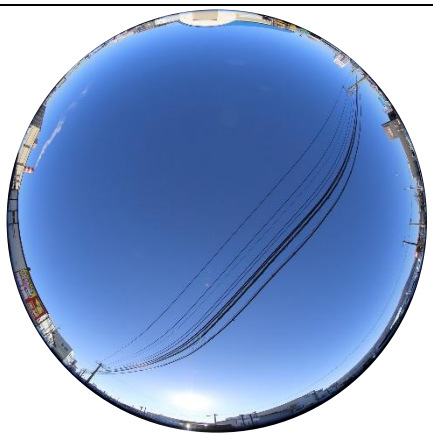
表 7-2-1-16　⑪西側住居付近の天空写真

夏季	
冬季	

表 7-2-1-17　⑫最寄ショッピングセンター(追分通)の天空写真

夏季	
冬季	

表 7-2-1-18　⑬南側道路(下手稲通)の天空写真

夏季	
冬季	

（３） 予測内容

１）予測項目

予測項目は、供用時及び完成時の施設の存在に伴う主要な景観の改変及び圧迫感の程度とした。

２）予測方法

事業計画をもとに、視点場からの景観のフォトモンタージュを作成し、景観の変化を視覚的に予測する方法とした。また、近景域については、天空写真を用いた形態率による圧迫感の影響を予測した。

３）予測地域・地点

予測地域は、調査地域（事業実施区域から最大 8km）を含む範囲とした。予測地点は主要な景観の改変は現地調査を実施した 8 地点とし、圧迫感の程度は現地調査を実施した 6 地点とした。

４）予測時期

予測時期は、供用時及び完成時とした。

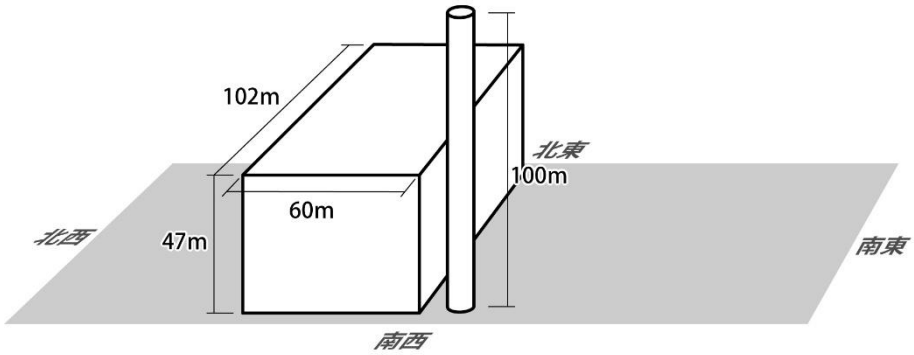
５）予測条件

施設の配置計画及び施設の詳細については確定していないため、基本計画における配置案をもとにより予測を行った。施設の配置計画を図 7-2-1-5 及び図 7-2-1-6 に、計画施設の規模を表 7-2-1-19 に示す。

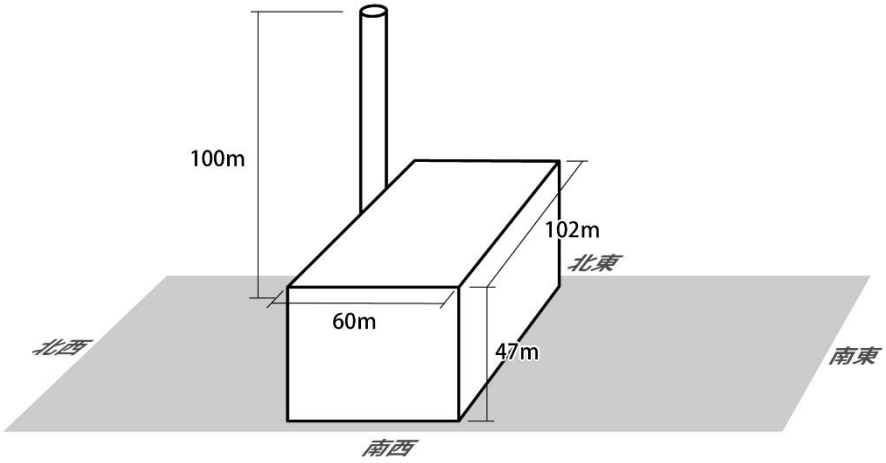
建物及び煙突の色彩については、無彩色（グレー）を想定した。

表 7-2-1-19　計画施設の規模

計画施設	幅(東西)	奥行き(南北)	高さ
焼却施設	60m	102m	47m (煙突100m)



A案



B案

図 7-2-1-4　施設イメージ（案）

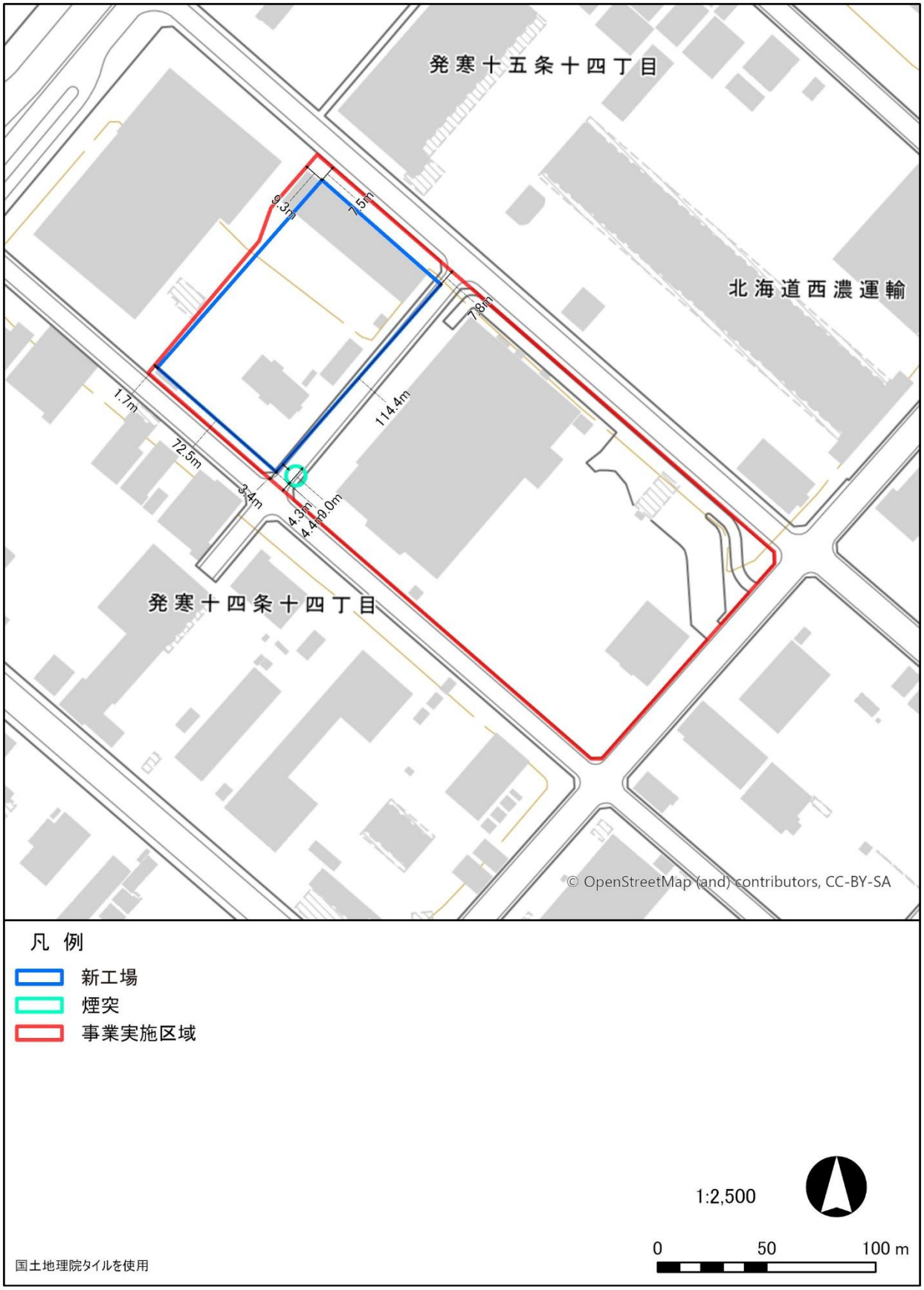


図 7-2-1-5　施設配置計画図（A 案）

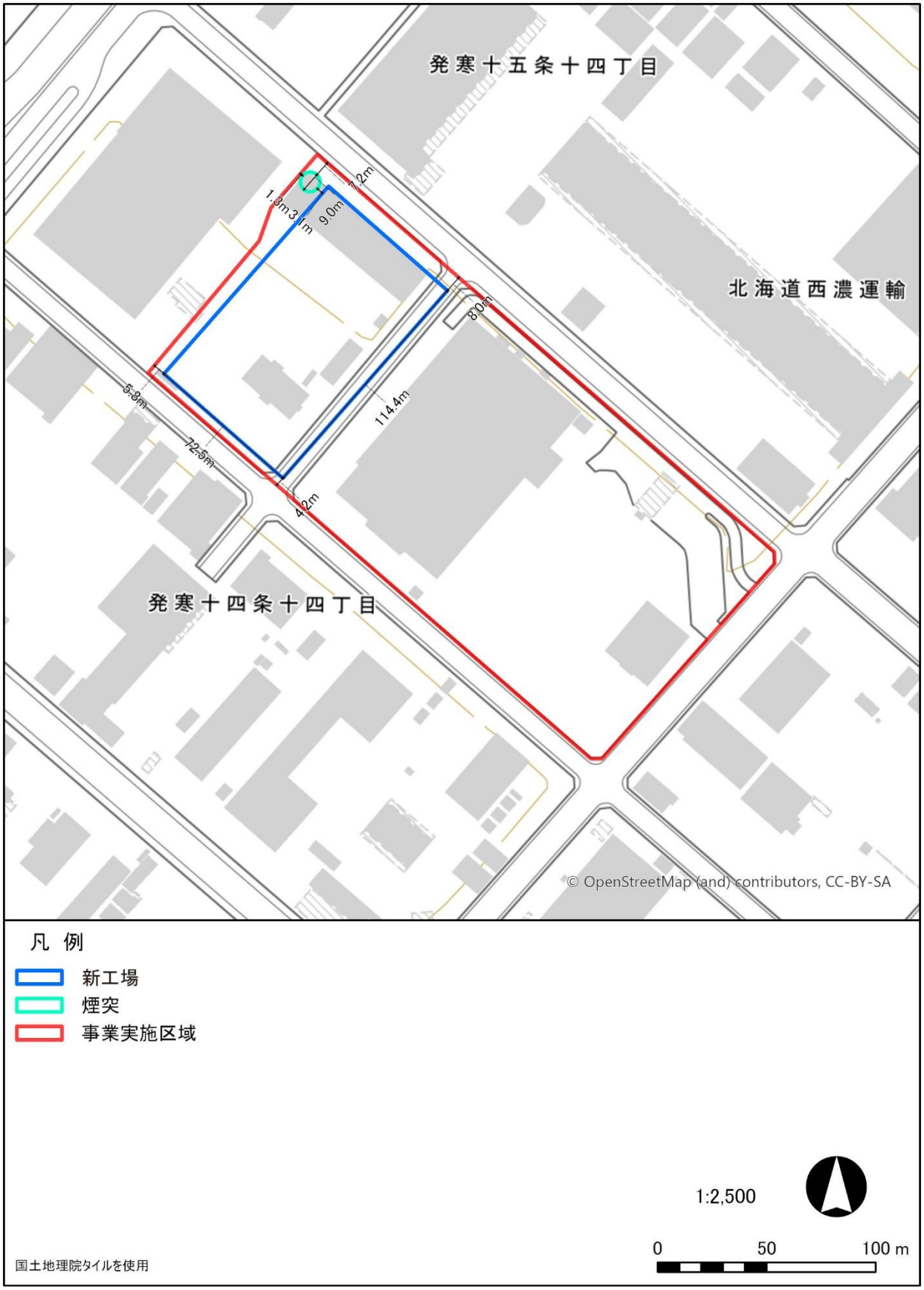


図 7-2-1-6　施設配置計画図（B 案）

（４） 予測結果

１）主要な景観の改変の程度

視点場からの景観の変化を表 7-2-1-20、表 7-2-1-21、表 7-2-1-22～表 7-2-1-28 に示す。

表 7-2-1-20　視点場からの景観の変化（A 案）

名称	景観の変化
①発寒いこい公園	発寒いこい公園から事業実施区域方向を眺望することができる。建物越しに新工場の煙突が視認できる。現工場撤去後は、現況の景観よりも影響が小さくなると予測される。
②新川西会館/桜並木	新川西会館前から事業実施区域方向を眺望することができる。北海道道125号前田新川線が新川に沿って手前を走っており、車両の通行がある。現工場撤去後は現況の景観よりも影響が小さくなると予測される。
③発寒青空公園/新川土手	新川左岸側の土手から事業実施区域方向を眺望することができる。現工場撤去後は、煙突は現況位置の南側に移動し下部が隠れるが、背景のスカイラインの切断は回避されないことから、現況の景観よりも影響はわずかに小さくなると予測される。
④発寒西公園	公園内の開けた場所から事業実施区域方向を眺望することができる。現工場撤去後は煙突の中下部まで視認されるが、視野の変化は小さく、現況の変化はほとんどないと予測される。
⑤宮丘公園（遊戯広場）	宮丘公園内の遊戯広場から事業実施区域方向を眺望することができる。新工場、現工場ともに、煙突と建屋の大部分を視認することができるが、約3km離れており、細部を識別することは難しく、景観の変化はほとんどないと予測される。
⑥JRタワー展望台	JRタワー展望台から事業実施区域方向を眺望することができる。新工場、現工場ともに、煙突を視認することができるが、約7km離れており、細部を識別することは難しく、景観の変化はほとんどないと予測される。
⑦前田森林公園 （ながめの丘）	前田森林公園のながめの丘から事業実施区域方向を眺望することができる。新工場、現工場ともに煙突の一部が視認されるだけであり、景観の変化はほとんどないと予測される。

表 7-2-1-21　視点場からの景観の変化（B 案）

名称	景観の変化
①発寒いこい公園	発寒いこい公園から事業実施区域方向を眺望することができる。建物越しに新工場の煙突が視認できる。現工場撤去後は、現況より北側に煙突が視認されるが、視野は現況と同程度であり、景観の変化はほとんどないと予測される。
②新川西会館/桜並木	新川西会館前から事業実施区域方向を眺望することができる。北海道道125号前田新川線が新川に沿って手前を走っており、車両の通行がある。現工場撤去後は、現況より北側に煙突が視認されるが、視野は現況と同程度であり、景観の変化はほとんどないと予測される。
③発寒青空公園/新川土手	新川左岸側の土手から事業実施区域方向を眺望することができる。現工場撤去後は、煙突は現況位置の北側に移動し大部分が隠れ、背景のスカイラインの切断も回避されることから、現況の景観よりも影響は小さくなると予測される。
④発寒西公園	公園内の開けた場所から事業実施区域方向を眺望することができる。現工場撤去後は煙突までの視程が大きくなり、現況の景観より影響は小さくなると予測される。
⑤宮丘公園（遊戯広場）	宮丘公園内の遊戯広場から事業実施区域方向を眺望することができる。新工場、現工場ともに、煙突と建屋の大部分を視認することができるが、約3km離れており、細部を識別することは難しく、景観の変化はほとんどないと予測される。
⑥JRタワー展望台	JRタワー展望台から事業実施区域方向を眺望することができる。新工場、現工場ともに、煙突を視認することができるが、約7km離れており、細部を識別することは難しく、景観の変化はほとんどないと予測される。
⑦前田森林公園 （ながめの丘）	前田森林公園のながめの丘から事業実施区域方向を眺望することができる。新工場、現工場ともに煙突の一部が視認されるだけであり、景観の変化はほとんどないと予測される。

表 7-2-1-22　①発寒いこい公園からの眺望の変化

	A案	B案
現況		
供用時		
完成時		

表 7-2-1-23　②新川西会館/桜並木からの眺望の変化

	A案	B案
現況		
供用時		
完成時		

表 7-2-1-24　③発寒青空公園/新川土手からの眺望の変化

	A案	B案
現況		
供用時		
完成時		

表 7-2-1-25　④発寒西公園からの眺望の変化

	A案	B案
現況		
供用時		
完成時		

表 7-2-1-26　⑤宮丘公園（遊戯広場）からの眺望の変化

	A案	B案
現況		
供用時		
完成時		

表 7-2-1-27　⑥JR タワー展望台からの眺望の変化

	A案	B案
現況		
供用時		
完成時		

表 7-2-1-28　⑦前田森林公園（ながめの丘）からの眺望の変化

	A案	B案
現況		
供用時		
完成時		

2）事業実施区域周辺における圧迫感

事業実施区域周辺の⑦～⑩地点における現況と将来の形態率の変化を表 7-2-1-29 及び表 7-2-1-30 に、天空写真を表 7-2-1-31～表 7-2-1-36 に示す。

A 案について、供用時の形態率は、地点⑪で 19.35%、地点⑩で 15.56%、地点⑧で 15.40%等と予測され、現況から供用時における変化量は 0.00～0.78%と予測される。

完成時は現工場が撤去されるため、形態率は、地点⑪で 19.35%、地点⑩で 15.53%、地点⑧で 14.94%等と予測され、現況から完成時における変化量は-0.31～0.72%と予測される。

B 案について、供用時の形態率は、地点⑪で 19.39%、地点⑩で 15.95%、地点⑧で 15.44%等と予測され、現況から供用時における変化量は 0.04～0.61%と予測される。

完成時は現工場が撤去されるため、形態率は、地点⑪で 19.36%、地点⑩で 15.92%、地点⑧で 14.95%等と予測され、現況から完成時における変化量は-0.29～0.56%と予測される。

表 7-2-1-29　圧迫感の状況（A 案）

地点名	形態率（%）				
	現況 (a)	供用時 (b)	変化量 (b-a)	完成時 (c)	変化量 (c-a)
⑧北東側工業団地内	15.24	15.40	0.15	14.94	-0.31
⑨北側工業団地内	12.02	12.11	0.09	12.08	0.06
⑩北側住居付近	15.56	15.56	0.00	15.53	-0.03
⑪西側住居付近	19.35	19.38	0.03	19.35	0.00
⑫最寄ショッピングセンター（追分通）	7.84	7.94	0.10	7.86	0.02
⑬南側道路（下手稲通）	7.97	8.75	0.78	8.70	0.72

表 7-2-1-30　圧迫感の状況（B 案）

地点名	形態率（%）				
	現況 (a)	供用時 (b)	変化量 (b-a)	完成時 (c)	変化量 (c-a)
⑧北東側工業団地内	15.24	15.44	0.20	14.95	-0.29
⑨北側工業団地内	12.02	12.15	0.13	12.12	0.11
⑩北側住居付近	15.56	15.95	0.39	15.92	0.36
⑪西側住居付近	19.35	19.39	0.04	19.36	0.01
⑫最寄ショッピングセンター（追分通）	7.84	7.92	0.08	7.82	-0.02
⑬南側道路（下手稲通）	7.97	8.59	0.61	8.53	0.56

表 7-2-1-31　⑧北東側工業団地内の天空写真

	A案	B案
現況		
供用時		
完成時		

現工場　新工場

表 7-2-1-32　⑨北側工業団地内の天空写真

	A案	B案
現況		
供用時		
完成時		

現工場　新工場

表 7-2-1-33　⑩北側住居付近の天空写真

	A案	B案
現況		
供用時		
完成時		

現工場　新工場

表 7-2-1-34　⑪西側住居付近の天空写真

	A案	B案
現況		
供用時		
完成時		

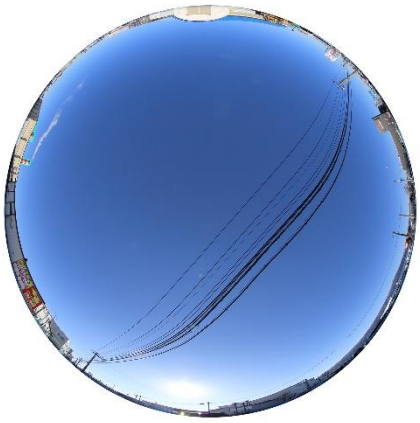
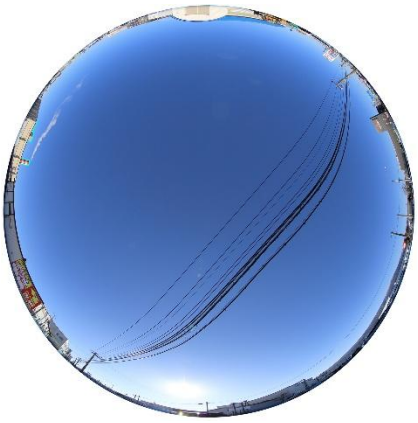
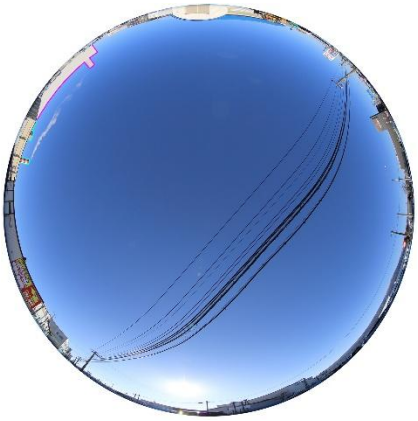
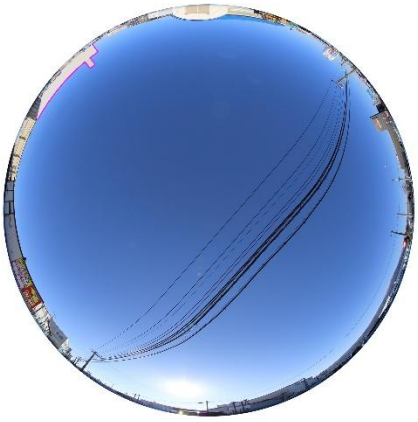
現工場　新工場

表 7-2-1-35　⑫最寄ショッピングセンター（追分通）の天空写真

	A案	B案
現況		
供用時		
完成時		

現工場　新工場

表 7-2-1-36　⑬南側道路（下手稲通）の天空写真

	A案	B案
現況		
供用時		
完成時		

現工場　新工場

（５） 環境保全のための措置

地形改変後の土地及び工作物の存在による景観への影響については、以下の環境保全のための措置を講じる計画である。

【景観創造に関する環境保全上の条件】

・景観の連続性や一体性を維持し、遠方から目立つことなく周辺の景観に溶け込む色調を基本として、圧迫感のない親しみ、温かさを感じる外観とする。

【外観デザインのコンセプト】

・景観に融合するデザイン、色調とする。
・外観の基調となる色彩の範囲は「札幌市の景観色 70 色」とする。
・訪れる人々が好感を持ち、快適性を感じる外観とする。

【緑化計画】

・敷地周囲の緑化は、周辺の景観との連続性と一体性を確保するようなつくりにする。
・維持管理の容易さや管理方法についても十分配慮する。
・樹種は敷地現況の植生に十分配慮する。

（６） 評価

１）環境影響の回避、低減に係る評価

地形改変後の土地及び工作物の存在による景観への影響については、周辺からの眺望に配慮した景観創造を検討するとともに、建物は圧迫感のない親しみ、温かさを感じる外観とする。

このため、地形改変後の土地及び工作物の存在による景観の影響は実行可能な範囲内で低減されているものと評価する。

２）環境の保全に関する施策との整合性に係る評価

地形改変後の土地及び工作物の存在に係る影響について、整合を図るべき評価指標は表 7-2-1-37 に示すとおりとした。

表 7-2-1-37　景観に係る影響の評価指標

項目	評価指標
主要な景観の改変の程度	札幌市景観計画における「市街地の外」の景観形成の考え方によるものとする。 【市街地を取り囲む自然的特性を重視した景観形成】 ・良好な自然環境や優良な農地の景観の保全を図ります。
圧迫感の程度	文献に基づき計画施設の形態率15%以下とする。

文献：「周辺建築物の影響を考慮した大規模建築物から受ける圧迫感と許容限界値に関する研究」（日本建築学会大会学術講演梗概集、1990 年 10 月、日吉聰一郎、武井正昭）

ア．主要な景観の改変の程度

主要な景観の改変の程度については、各視点場からのフォトモンタージュにより検討を行った結果、景観の変化はほとんどないか、影響は限定的であると予測された。また、周辺の景観との連続性に留意し、周辺からの眺望に配慮して、敷地周辺には緩衝緑地を確保することから、評価指標との整合が図られているものと評価する。

イ．事業実施区域周辺における圧迫感

圧迫感の評価結果を表 7-2-1-38～表 7-2-1-39 に示す。

事業実施区域周辺における形態率は、A 案の供用時において 7.94～19.38%、完成時において 7.86～19.35%と予測された。また、B 案の供用時において 7.92～19.39%、完成時において 7.82～19.36%と予測された。

A 案は、地点⑩⑪で評価指標を上回るが、現況と同程度または低減されている。それ以外の地点は評価指標を下回ることから、評価指標との整合は概ね図られているものと評価する。

B 案は、地点⑩⑪で評価指標を上回るが、現況と同程度である。それ以外の地点は評価指標を下回ることから、評価指標との整合は概ね図られているものと評価する。

表 7-2-1-38　圧迫感の評価指標（A 案）

地点名	形態率(%)		
	現況	供用時	完成時
⑧北東側工業団地内	15.24	15.40	14.94
⑨北側工業団地内	12.02	12.11	12.08
⑩北側住居付近	15.56	15.56	15.53
⑪西側住居付近	19.35	19.38	19.35
⑫最寄ショッピングセンター（追分通）	7.84	7.94	7.86
⑬南側道路（下手稲通）	7.97	8.75	8.70
評価指標	15.00	15.00	15.00

表 7-2-1-39　圧迫感の評価指標（B 案）

地点名	形態率(%)		
	現況	供用時	完成時
⑧北東側工業団地内	15.24	15.44	14.95
⑨北側工業団地内	12.02	12.15	12.12
⑩北側住居付近	15.56	15.95	15.92
⑪西側住居付近	19.35	19.39	19.36
⑫最寄ショッピングセンター（追分通）	7.84	7.92	7.82
⑬南側道路（下手稲通）	7.97	8.59	8.53
評価指標	15.00	15.00	15.00